7　波及効果としての教師間の教科等経営の変化について

「総合的な学習の時間」の実施による波及効果として、教師の教科等経営にどのような質的な変化が見られるようになったか質問した。

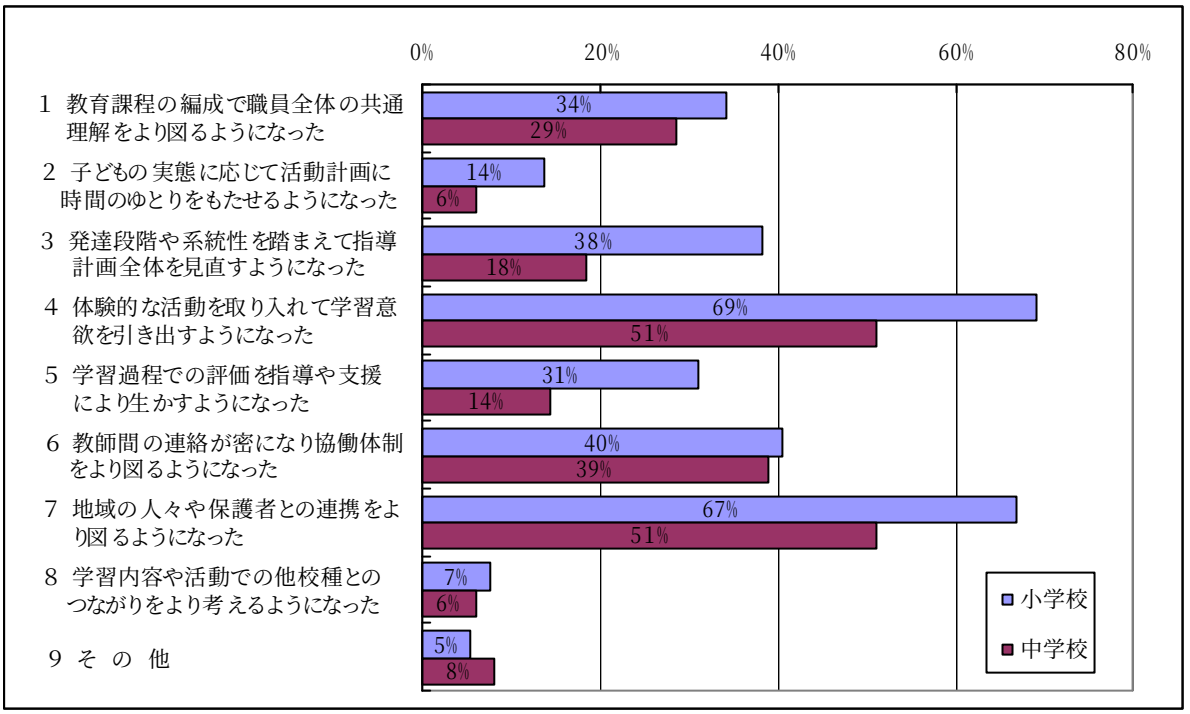

図９　「総合的な学習の時間」の実施による教科等経営の変化（複数回答）

(1)　結果

回答の割合が高かったのは、「体験的な活動を取り入れて児童生徒の学習意欲を引き出すようになった」（小69%、中51%）「地域の人々や保護者との連携をより図るようになった」（小67%、中52%）「教師間の連絡が密になり協働体制をより図るようになった」（小40%、中39%）であった。一方、回答の割合が低かったのは、「子どもの実態に応じて活動計画に時間のゆとりをもたせるようになった」（小14%、中6%）「学習内容や活動での他校種とのつながりをより考えるようになった」（小7%、中6%）「学習過程での評価を指導や支援により生かすようになった」（小31%、中14%）であった。

(2)　考察

体験的な学習活動は、児童生徒の興味、関心を引き出し、学習意欲を高めるのに効果的である。「総合的な学習の時間」では、保護者や地域の人々の協力により自然体験や社会体験等の学習活動が多く行われている。こうした機会が、教科等の学習にも多く取り入れられてきている様子がうかがえる。また、「総合的な学習の時間」においては、カリキュラムの開発や単元の計画、実施、評価、改善等、全教職員による共通理解や協働体制を図ることが必要となってくる。こうした取組は、教科等の経営改善にもよい影響をもたらしており、教師間の連携や協働体制がより図られてきたことが分かる。